

「平成29年度に実施した仕事」の振り返りシート

記入日 平成30年 3月 30日

仕事の内容	認知症サポーター養成講座					
担当部署・課長名	高齢介護	課	介護認定	係	課長名	伊野宮 崇

この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。

【施策】 高齢者保健福祉の推進

(総合計画書 51 ページ)

予算名	款 3	民生費	項 1	社会福祉費	目 3	老人福祉費	事業 4	高齢者日常生活支援事業	
1 この仕事の目的	① 誰(何)を対象にしていますか。 一般市民全体(特に高齢者と係わりのある市民)					① ①の対象数や量を、あらわすもの(対象指標) → 東大和市人口(平成30年4月1日現在)			
	② ①をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に] 認知症サポーターの作成					② ②の状態になった数・量をあらわすもの(成果指標) → 認知症サポーター養成講座受講者数			
	③ そのために何をしましたか。 認知症サポーター養成講座の開催					③ ③をどのくらい行いましたか(活動指標) → 認知症サポーター養成講座開催数			

		単位	平成27年度実績	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度目標	平成31年度目標
2 指標の推移	対象指標	①の数値	人	86,044	85,857	85,698	
	成果指標	②の数値	人	976	236	188	
	目 標	②の目標値					
		目標値設定の考え方					
活動指標	③の数値	回	24	11	13		
3 経費	事業費(実績)		円	7,000	109,570	1,000	※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費(再任用職員以外)年間単価は、8,253,000円 時間単価は、4,200円で計算してください。 【算出根拠】平成28年度決算数値。(退職手当組合負担金、共済費も含む。)
	財源	一般財源	円	7,000	109,570	1,000	
		特定財源	円				
		(うち受益者負担)	円				
	人件費(目安)	所要人数(再任用以外)	時間	48.0	22.0	26.0	
		所要人数(再任用)	時間				
		職員人件費(再任用以外)	円	201,600	94,600	109,200	
職員人件費(再任用)		円					
事業費+人件費		円	208,600	204,170	110,200		

この仕事における市の裁量 市の裁量は大きい

4 環境変化	この仕事の開始時期(開始年度)、何を目的に開始していますか。 厚生労働省が、平成17年度より「認知症を知り地域をつくる10か年」キャンペーンを始めた。その一環である「認知症サポーター100万人キャラバン」を、認知症を理解し、認知症の人やその家族を見守る認知症サポーターを一人でも増やし、安心して暮らせるまちづくりを市民の手で展開していくため開始した。市では、平成18年度から講座を開始。また、第6期介護保険事業計画にて、認知症サポーターを3,000人育成することを目標に掲げた。	
	開始当初と比較し、状況の変化はありますか。 全国で養成された認知症サポーターは980万人を突破し、市では、平成30年3月末現在、4088人の認知症サポーターを要請した。	

5 市民等の意見	この仕事に関して、平成29年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について 議会的一般質問では、認知症サポーターの取組みや、認知症サポーターの活用について質問されている。 本講座の受講者は、認知症予防の目的や認知症の家族がいる方の参加が多い。また、研修の一環として団体に申込される場合もある。 認知症サポーター養成講座受講者からは、ステップアップ研修やキャラバン・メイトの資格取得の要望がある。 講座を修了した者を今後どのように活用していけばよいかを模索している。	

仕 事 の 内 容	認知症サポーター養成講座					
担当部署・課長名	高齢介護	課	介護認定	係	課長名	伊野宮 崇

6 市民協働	(1)市民協働の取組を行いましたか。ある場合は、取組手法の種類から番号を選択しご記入ください。(複数回答可)		
	取り組みは無い	取組手法 【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換(広報媒体:) ⑦後援・場の提供 ⑧その他()	
(2)平成30年度に向け、さらに適した協働の形態とするために「考え」「気付いた」点をご記入ください。			
7 課 題	(1)平成28年度の課題についての解決に向けた取組や、事務改善など、平成29年度に実施したことをご記入ください。 平成29年度に新たな取組は実施できていない。		
	(2)この仕事を振り返り、課題をご記入ください。 平成30年3月1日現在、市の高齢化率は26.44%に上っている。市の認知症対策のひとつとして、今後はキッズサポーターなど、さまざまな世代で認知症サポーターを要請していく必要がある。また、キャラバン・メイトの養成、認知症サポーターのフォローアップや、活用なども検討課題となっている。		
8 今 後 の 方 向 性	(1)仕事の方向性(「7 課題(2)」を踏まえた具体的な改革・改善案など) ・認知症サポーター養成講座の定期開催以外に、各企業や団体からの申込による講座の開催に繋がるようPRする。 ・養成講座の講師となる、キャラバン・メイト養成研修の開催を検討する。 ・認知症サポーターのフォローアップとして講演会などの実施。		
	(2)上記(1)の改革・改善案を実現するために、克服すべき問題点、必要な調整・準備等を具体的にご記入ください。 ・キャラバン・メイト養成研修や、認知症サポーターのフォローアップ講座や講演会などを企画する。		
	(3)改革・改善案による期待成果 上記(1)の改革・改善案を実施することで、成果面と経費面で現状からどのように変わりますか。		
成果	成果を向上させる。	経費	仕事の経費は維持する。